

氏名	田代 幸恵	学校名	栃木県 宇都宮市立上河内西小学校
担当教科等	全教科	対象学年（人数）	4年1組（21名）
実践年月日もしくは期間（時数）		2021年4月～10月（25時間）	

【実践概要】

1. 教科・領域：総合的な学習の時間		
2. 単元（活動）：上河内のすてき発見！身近な環境		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：身近な環境とSDGs 単元目標： 子どもたちは、1・2年生の生活科では、学校周辺の公園や施設にはどんな人・もの・場所があるのかを体験を通して学んできた。また、3年生の社会科では、学区内を東西南北に分け、それぞれの町の様子を調査する学習も行っている。しかし、地域について学んではいるものの、子どもたちは学んだことを情報として理解していても、生まれ育つこの場所があまりに当たり前の光景であり、自分が地域の一員であるという意識や地域への愛着までは育っていないのが現状である。また、環境問題についてもニュースや社会の学習での情報から関心はあるが、知識としての理解に留まり、実践には至っていない。 そこで、身の回りの環境について自分なりの課題をもって調べる活動を通して地域のよさや地域と自分たちとの関わりに目を向けさせることで、自分たちの住む地域に親しみをもち、地域の一員としてよりよく生きようとする態度や心情を養いたい。また、SDGsの視点を取り入れることで、多面的に物事を見たり、考えたりする態度を養い、視野を広げさせたい。		
関連する学習指導要領上の目標： (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする。 (2) 実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で探究課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。		
4. 単元の 評価規準	① 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 地域の環境について考え、自分にできることを実践する。 SDGsの内容や目的について理解している。
	② 思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 環境問題に対する自分の思いや考えを分かりやすくまとめたり、伝えたりすることができる。
	③ 学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 環境問題を自分のこととして捉え、地域の中で生活する一人として考たり、また、地球規模での視野をもち、自分にできることを考えたり、実践したりしようとする。
5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、指導観)	<p>【単元設定の理由】</p> <p>昨今の異常気象による豪雨（豪雪）災害、また、レジ袋の有料化など環境を意識した取り組みなど地球環境を意識することが多くなった。</p> <p>本単元では、身近な環境に目を向け、環境問題について知り、自分でできることを考えたり、行動したりすることで環境保全や環境問題への意識を高めさせたい。また、SDGsの視点を取り入れることで、原因や理由だけを追及するのではなく、それぞれの問題は様々な点で絡み合っていて、複合的な問題であることに気付かせたい。それにより多面的に物事を考える態度を養うことができると考え、本単元を設定した。</p> <p>【単元の意義】</p> <p>子どもたちにとって環境問題は、「異常気象」や「ゲリラ豪雨」などの言葉や、自然災害のニュースなどから深刻な問題だとは感じているが、その問題についてどう考え、行動したらいいのか分からないという状況である。「SDGsの開発目標」を結びつけることで、多面的に原因や理由を考えたり、実践したりすることで自分のこととして主体的に取り組むことができると考えた。</p>	

	<p>【児童／生徒観】 校内でのごみの分別を意識して捨てたり、食品ロスについて考え、給食の残量を調べた結果を他学年に発表したり意欲的に取り組んでいる。しかし、このような身近な取り組みが環境を守ることにどうつながっているのか曖昧な理解に留まっている。</p> <p>【指導観】 本単元を通して、物事の事象には様々な原因や理由があり、主に環境問題について、なぜそのような問題が起きたのかを多面的な視点と論理的な思考をもって本質に向き合わせたい。「SDGs の開発目標」を踏まえて考えることで、より関連性を重視しながら思考を深めることができると考えた。 また、起きている問題や課題を自分や身近なこととして捉え、自分にできることを考えたり、実行したりすることで主体的に行動する力を養いたい</p>
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

6. 単元計画 (全 25 時間)				
時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1～4	見てみよう！身近な環境	身近な環境問題について知り、考える。	○気付いた課題について整理し、話し合う。	
5～10	考えよう！SDGs	SDGs を知り、理解を深める。	<p>○SDGs について理解する。 SDGs の調べ学習、SDGs すごろく体験、「私たちの SDGs」のピクトグラム作成</p>  <p>【SDGs への仲間分けシート】</p>  <p>【児童が作成したピクトグラム】</p>	ダイヤモンド ランキング SDGs すごろく
11～15	やってみよう！SDGs	課題について情報を収集する。	<p>○課題をもとに体験学習を行う。</p>   <p>【玉ねぎの染色】</p>	玉ねぎの皮の染色

16 本時	まとめ	自分たちにできることを考えたり、まとめたりする。	○すごろく作成・発表する。 ・ 班ごとに自分たちにできることを考える。	付箋紙
17 18			・ すごろくを作成する。	模造紙・付箋紙
19			・ 班ごとにすごろくを発表する。	画用紙
20			・ 1・2年生とすごろくをする。 	児童が作成したすごろく 【資料】
21～ 24			○SDGsに関する絵本を紹介する。  	
25	振り返り		・ 振り返り	

【すごろくをしている様子】

○SDGsに関する絵本を紹介する。

【SDGsに関する本の紹介】

【私のおすすめの本】

<p>7. 本時の展開 (16 時間目)</p> <p>本時のねらい：</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本や世界の問題について SDGs の観点を踏まえながら自分事として捉え、自分にできることを考えようとする。 SDGs に照らし合わせながら、自分たちができることを書くことができる。SDGs を理解し、すぐろくを作ることができる。 			
過程時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
<p>導入 (5分)</p>	<p>1 前時までの学習内容を確認する。 [一斉]</p> <ul style="list-style-type: none"> SDGs の内容を振り返る。 SDGs の問題と自分たちの生活を見つめ直し、自分たちができることを想起させる。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでに学習した学習内容を想起させ、既習内容を確認する。 	<p>SDGs カード</p>
<p>展開 (35分)</p>	<p>2 自分たちができることについて、話し合う。[一斉]</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校など身の回りの課題について話し合う。 例) 手洗いの時の水の使い方 身の回りの課題と SDGs を照らし合わせ、組み合わせる。 例) 節水→SDGs <p>3 本時の課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>SDGs すぐろくを作ろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 身の回りの課題について SDGs の項目と照らし合わせ、自分たちができることについて考える。 [グループ] すぐろくのマスを作る。【資料1】 [グループ] <p>4 SDGs の項目と自分たちができることについて、班ごとに発表する。 [一斉]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分のこととして捉え、問題意識をもって考えたり、聞いたりするように伝える。 タブレット端末の機能を使い、意見を書かせる。 課題と SDGs の関連性についてイメージをつかませ、自分たちの生活にどのように置き換えることができるのか考えさせる。 少人数の班ごとで活動させることで、全員が意見を出し合えるようにする。 自分たちや他の班の意見を聞くことで、自分たちができることの幅を広げて考えさせる。 	<p>SDGs カード</p> <p>PC</p> <p>SDGs カード 模造紙 付箋紙</p>
<p>まとめ (5分)</p>	<p>5 本時の振り返り 自分ができることについて SDGs と関連させ発表する。</p>		
<p>8. 評価規準に基づく本時の評価方法</p> <p>【ワークシート・発表・観察】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちができることを SDGs に対応させながら適切に表し、SDGs の目標を正しく理解することができる。 SDGs に照らし合わせながら、自分たちができることを書くことができる。 			

9. 学習方法及び外部との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ タブレット端末（クロームブック）を用いて自分の意見を出すことで発言を苦手とする児童も意見を交換することができた。 ・ 一斉、グループ、個人など形態を変化させることで、考えるヒントとなったり、思考を深めたりすることができた。
10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 低学年と異学年交流を行った。一緒にすごろくを行うことで、SDGsの目標と触れる機会とした。 ・ 教員間のSDGsへの知見を高める機会とするために、本事業についての報告会を実施予定。

【自己評価】

11. 苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境問題を軸として、SDGsを取り入れて行った。しかし、環境問題とSDGsのどちらについても大きな問題であり、子どもたちが自分事として考えることができる課題を設定することが難しかった。
12. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・ SDGs全般を取り入れたことで世界の問題について考える機会となったが、範囲がとても広がってしまい、個人の思考を十分に深めることができなかつたので、問題を絞って思考をもっと掘り下げた方が個人の理解が深まった。
13. 成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界規模の環境問題が起きる理由を考える活動の際、その理由をたどっていくと実際はとても身近なところから始まっていることに気付き、また、SDGsの視点をもって考えると環境問題は、原因と理由が一本の線につながっているのではなく、別の種類の問題も往々にして関わっていることを理解することができていた。 ・ 自分の考えをより広く伝えることができる手段として「すごろく」を活用することで、どうしたら相手に理解してもらえるのかを考える機会となった。
14. 学びの軌跡 (児童/生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<p>SDGsの学習に対する児童の感想</p>
15. 授業者による自由記述	<p>今回、この研修に参加させていただき、普段見学することができない場所を訪れることで、様々な人たちと話をすることができた。「百聞は一見に如かず」のことば通り、諸感覚を使って得た感覚と、そこから湧き出る考えや思いがあった。</p> <p>研修前は、今回のテーマであるSDGsは、どこか自分とは遠いところにあるような気がしていて、子どもたちにはどう伝えればよいのか迷いがあった。しかし、今回の経験から何事も一つずつ、どんな些細なことでも自分の目で確かめ、考え続けることが大切であることを実感した。これからもその精神をもって、人として、教員として、子どもたちと共に成長し続けたいと思う。</p>

参考資料：

- ・ 「共につくる私たちの未来 SDGsから『持続可能な社会の創り手』への一步を」 JICA 地球ひろば
- ・ 「『生きる力』を育む国際理解教育実践資料集」 JICA 地球ひろば

添付資料：【資料1】児童が作成したすごろく

